

[掲載紙] 朝日新聞「上州経済風信」

[掲載日] 2012年8月16日

[テーマ] 県内の観光地の課題—外国人もてなし高めて—

ロンドン・オリンピックが閉幕した。日本人選手の活躍に、言葉で言い尽くせないほど感動した。歌手で俳優の福山雅治さんが、朝日新聞紙上の写真とコラムで、競技場の熱気と英国の魅力を余すことなく伝えていたのも印象深かった。



さて、群馬県では現在、「ググっとぐんま観光キャンペーン」が展開されている。7～9月の観光入り込み客数の目標は、昨年の群馬デスティネーションキャンペーンを超える1900万人だ。県外客を呼び込もうと、都内のJRの駅でも「ぐんまちゃん」ののぼりが目に付く。群馬県の観光入り込み客をみると、約9割が県内外の日帰り客で、消費額が比較的大きい県外からの宿泊客は全体の1割にも満たない。

■表1・群馬県の観光入り込み客数

年度	合計	日帰り	宿泊	県外宿泊客
2009	6025	5295 (87.9%)	730 (12.1%)	540 (9.0%)
2010	5981	5266 (88.0%)	716 (12.0%)	510 (8.5%)
2011	5881	5167 (87.9%)	714 (12.1%)	470 (8.0%)

※単位は万人、カッコ内は構成比。

県観光物産課「群馬県観光客数・消費額調査（推計）結果」から

だからこそ、県内外を問わず、リピーター客の確保や、複数の施設を利用してもらう工夫が重要だ。

先日、友人の案内で、吾妻エリアを散策した。北軽井沢の鬼押出し園、孀恋牧場、草津白根山を訪れ、万座・草津両温泉にも入湯し、充実した1日を過ごした。観光名所と温泉地とのつながりが大きな魅力だと実感した。

その温泉地で気になったのが、外国人観光客の少なさだ。昨年来の風評被害もあって外国人観光客は減少しているが、もともと県内の観光客に占める外国人の割合は低い。



一方、同じように有名な温泉地がある大分県や静岡県などには、毎年大勢の外国人観光客が訪れている。

■表 2・2011 年の延べ宿泊者数

	延べ宿泊客数	外国人宿泊客数と比率
群馬県	875 万人	5 万人 (0.6%)
栃木県	870 万人	8 万人 (0.9%)
新潟県	1037 万人	9 万人 (0.9%)
静岡県	1941 万人	33 万人 (1.7%)
大分県	632 万人	36 万人 (5.7%)

※観光庁「宿泊旅行統計調査」から

県内の観光地でも、外国語のホームページの充実などの取り組みが見られるが、外国人観光客の多い他県の取り組みを参考にすることも有用だ。

別府温泉を数年前に訪れた際、英語や韓国語の標識や名所解説が随所であり、それを外国人がじっくり見ていたのが印象的だった。外国人向けの観光案内所の充実や、宿泊施設での各種外貨両替サービスなどにも取り組んでいるようだ。

群馬でも、観光キャンペーンを機に、外国人観光客の立場にたったホスピタリティー（おもてなし）を高める工夫が必要だろう。



福山雅治さんは、オリンピックの開会式をみて、英国の「スポーツとロック・ミュージックが違和感なく共存できる空気感」に感動したようだ。群馬を訪れる外国人観光客には、観光名所と温泉地が共存する土地柄とおもてなしを、心ゆくまで楽しんでもらいたい。

（日本銀行前橋支店長
相良 雅幸）